

第2期 横浜市食育推進計画(素案)に関する市民意見募集の実施結果について

第2期横浜市食育推進計画の策定にあたり、市民意見を反映するため、素案を公表し、市民意見募集を実施しました。このたび市民意見募集の実施結果と、計画への反映の考え方をまとめましたので、その概要について報告します。

1 実施概要

(1) 意見募集期間

平成27年10月19日(月)～11月16日(月)

(2) 周知方法

ア 素案冊子の配布(計 冊子版:500部 概要版:3,000部)

区役所、市民情報センター、地域子育て支援拠点、健康福祉局保健事業課

イ 関係団体(横浜市食育フォーラム委員等)への説明

横浜市歯科医師会、横浜市場活性化協議会、横浜市消費者協会、東京ガス(株)、JA横浜、(株)セブン-イレブン・ジャパン、神奈川県栄養士会、食育・料理専門家、はまふうどコンシェルジュ、横浜市医師会、よこはま食育財団、地域子育て支援拠点(港北区・泉区)、横浜市立小学校長会、横浜市食生活等改善推進員協議会、横浜市保健活動推進委員会区会長会、学識経験者、NPO法人ガストロノミ協議会

ウ その他

広報よこはま10月号、本市ホームページ、イベントでの周知

(3) 意見提出方法

郵送、FAX、電子メール

2 実施結果

(1) 意見総数(134件)

	人数(意見数)
個人	20人(33件)
関係団体	18団体(101件)

(2) 個人からの意見提出方法

提出方法	人数(意見数)
郵送等	17人(27件)
FAX・電子メール	3人(6件)

(3) 項目別意見数 (134件)

項目		意見数	
1	計画を策定する背景	6件	
2	第2期計画策定の考え方	全般	13件
		健康・安全	24件
		食体験・食文化	30件
		環境づくり	31件
		小計	98件
3	第2期計画の着実な推進に向けて	18件	
4	その他	12件	

(4) 提出された意見への対応状況 (134件)

項目	意見数
1 計画(素案)にご賛同いただいたもの	12件
2 意見の趣旨が計画(素案)に含まれているもの	16件
3 ご意見を反映し素案を修正するもの	18件
4 取組の際の参考とするもの	84件
5 その他	4件

3 主な意見の内容と対応の考え方

(1) 計画を策定する背景に関する意見 (6件)

	意見の内容	対応の考え方(案)
1	本市は人口も多く地域差もかなりあると思う。一律な取組ではなく、地域の特徴を生かした取組が必要。	各区における食育に係る啓発事業など、地域の実情を踏まえた取組も進めていきます。
2	現代は食べ物も溢れている一方で、食の内容や機会が貧しくなっているように感じる。	保健、福祉、教育等の関連分野を連携させた横断的な視点で取組を進めます。
3	食育の分野は広い。食は家庭環境から反映する。格差社会、貧困の問題が食の問題に繋がってくる。	

(2) 第2期計画策定の考え方 (98件)

	意見の内容	対応の考え方(案)
1	食育は継続の視点が必要。課題のある層には引き続き「周知」の取組が必要。	課題のある層には粘り強く、働きかけを工夫しながら取り組んでいきます。

2	供給量の視点からも地産地消の概念の整理が必要。市内産のみを想定しているのか。野菜や農産物だけでなく、魚も入るのではないか。	本市における地産地消は「市内産農畜産物を市内で消費すること」と定義しています。ただし、生産量に限りがあることから、市内の消費をすべて市内産農畜産物でまかなうことを目的とはしていません。そのため、食育の取組を進めるにあたっては、国内産や県内産の活用が必要だと考えています。なお、水産物についても、市内産農畜産物とあわせて、その魅力の発信や、観光資源としての有効活用等を行っていくことを検討していきます。
3	子どもとシニアをつなぐなど、世代間を超えた地域のつながりを活かした取組は効果が高いと思う。	子から親へ、高齢者から働き・子育て世代へとといった世代交流の視点から、横断的な取組を進めます。
4	食環境は育った環境の影響が大きい。教育できる大人の育成が必要。	食育を担う人材の育成を着実に進めていきます。
5	様々な企業・団体が食育の取組を行っているので、それぞれの得意分野で連携できるような仕組みがあればいいと思う。その仕組みづくりは行政に期待したい。	食育フォーラム等の様々な機会を通じて、円滑な連携ができるような仕組みづくりを進めていきます。
6	企業が社員に対して食育の取組を進めるべき。	「健康経営」の視点を入れて、食育の取組を進めます。
7	乳幼児期にどのような食生活をしたかが大切。親世代への啓発や子どもの頃の教育・体験が大切。	子どもへの教育や、子どもを通じた親世代への働きかけを進めていきます。

(3) 第2期計画の着実な推進に向けて（18件）

	意見の内容	対応の考え方(案)
1	目標のイメージをもっと具体的に示したほうがいいのではないかと。市民や区民がどう関わっていけばよいか具体的な手法が分からない。	計画の概要を示したパンフレットを別途作成予定です。ご指摘の趣旨を踏まえ、パンフレットの策定を進めます
2	食育の関心が高い層と、無関心な層の二極化が激しい。特に無関心層へのアプローチをどのように行っていくかが課題。	食の持つ魅力「おいしさ」や「楽しさ」を活かしながら、分野を超えた横断的な取組を進めます。

(4) その他（12件）

4 今後のスケジュール（予定）

平成28年 1月	計画原案策定
平成28年 2～3月	平成28年 市会第1回 定例会
3月	食育フォーラム 健康横浜21推進会議 計画策定・公表



第2期 横浜市食育推進計画

素案（概要版）

【計画期間：平成28年度～平成32年度】

皆さまのご意見を お聞かせください

意見募集期間：10月19日（月）～11月16日（月）

● 「食育」とは

平成17年に「食育基本法」が制定され、同18年3月には「食育推進基本計画」が策定されました。その中で「食育」は、生きる上での基本であり、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもので、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てるものとしています。

● 計画策定の経緯

「横浜市食育推進計画」は、食育基本法第18条に基づく本市の食育推進計画として、平成22年9月に、平成27年度までを計画期間として策定し、推進してきました。

このたび、食育を推進する中での課題や、これまでの社会環境の変化等を踏まえ、平成28年度から平成32年度までの5年間の計画期間として、本市の食育をさらに推進するために、第2期計画の素案をまとめましたので、市民の皆さまのご意見を募集します。

● 計画の位置づけ

本市の「第2期健康横浜21」や「学校における食育推進計画」など食育に直接かかわる計画のみならず、関係部署が推進している各分野別計画に盛り込まれている食育関連事業を、食育推進計画によって束ね、市民・地域・企業・団体が相互に連携し、一層の効果を生み出す関係を築きます。

- 第2期健康横浜21
- 学校における食育推進計画
- 横浜市食品衛生監視指導計画
- 横浜みどりアップ計画
- ヨコハマ3R夢プラン
- 横浜市子ども・子育て支援事業計画
- その他各分野別計画等

本資料の末尾に記した方法で、ご意見をお寄せください。いただいたご意見は、今後の計画策定にいかしていきます。

平成27年10月
横浜市

1 計画を策定する背景

● 第1期 横浜市食育推進計画の振り返り

第1期横浜市食育推進計画では、「食育」への関心を高め、行動を起こすための行動指針として、「よこはま指針(よく知ろう・これをやってみよう・はなしあおう・まいにちやってみよう)」を提案し、市民・地域・企業・団体・行政が連携を図り、食育の取組を進めてきました。振り返りでは、平成24年度、平成26年度の意識調査等を踏まえ、第2期計画では特に次の課題認識が必要であるととらえています。

- 20・30歳代を中心に、働く世代で健康や栄養に配慮した食生活（食事のバランスに気を付ける、朝食をとるなど）を実践する人の割合が少ない。
- 関心度が高くても、具体的な行動につながっていない。
- 食育行動の実践状況について、世代・性別によって温度差がある。など

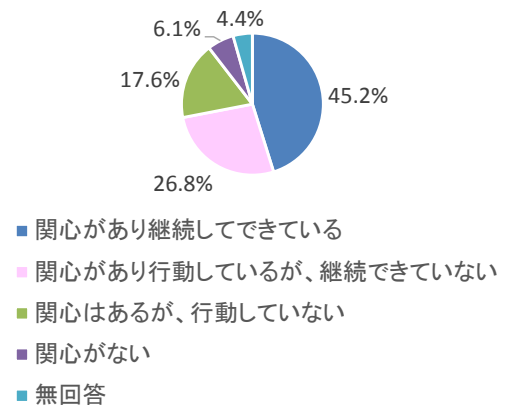
【食育に関する市民意識調査】※平成26年度

朝食を欠食*する人の割合(男性)

0～9歳	3.1%
10～19歳	15.1%
20～29歳	27.3%
30～39歳	37.1%
40～49歳	36.4%
50～59歳	24.5%
60～69歳	14%
70～79歳	4%
80～89歳	0%

数値目標
朝食を欠食する
市民の割合
15%以下
(20代、30代
男性)

毎日3食バランスよく食べることへの関心度



家庭で調理の中心となっている人(男女別)

- ・自分が中心になっている：女性 53.5% 男性 4.9%
- ・自分以外の人为中心になっている：女性 37.8% 男性 84.5%
- ・自分も自分以外の人もほぼ同等になっていることが多い：女性 4.9% 男性 6.2%
- ・外食や調理済みの食品購入が主なので、調理をほとんどしない：女性 0.6% 男性 0.7%
- ・その他・無回答・誤記入：3.2%

※朝食の欠食率：朝食を食べる日が、週5日以下の市民の割合

<これまでの取組等からの振り返り(現場からの声)>

- 若い層に健康的な食生活や、バランスよく食べる力が身についていない。
- 子育て中の養育者は、子どもの食育への関心が高いが、自分自身への食育には関心が薄い。
- 子どもの食生活を担っている親世代にこそ食育が必要である、という理解があまり浸透していない。
- 食育への関心の低い人が、食育について興味を持つ環境が整っていない。など

2 第2期計画策定の考え方

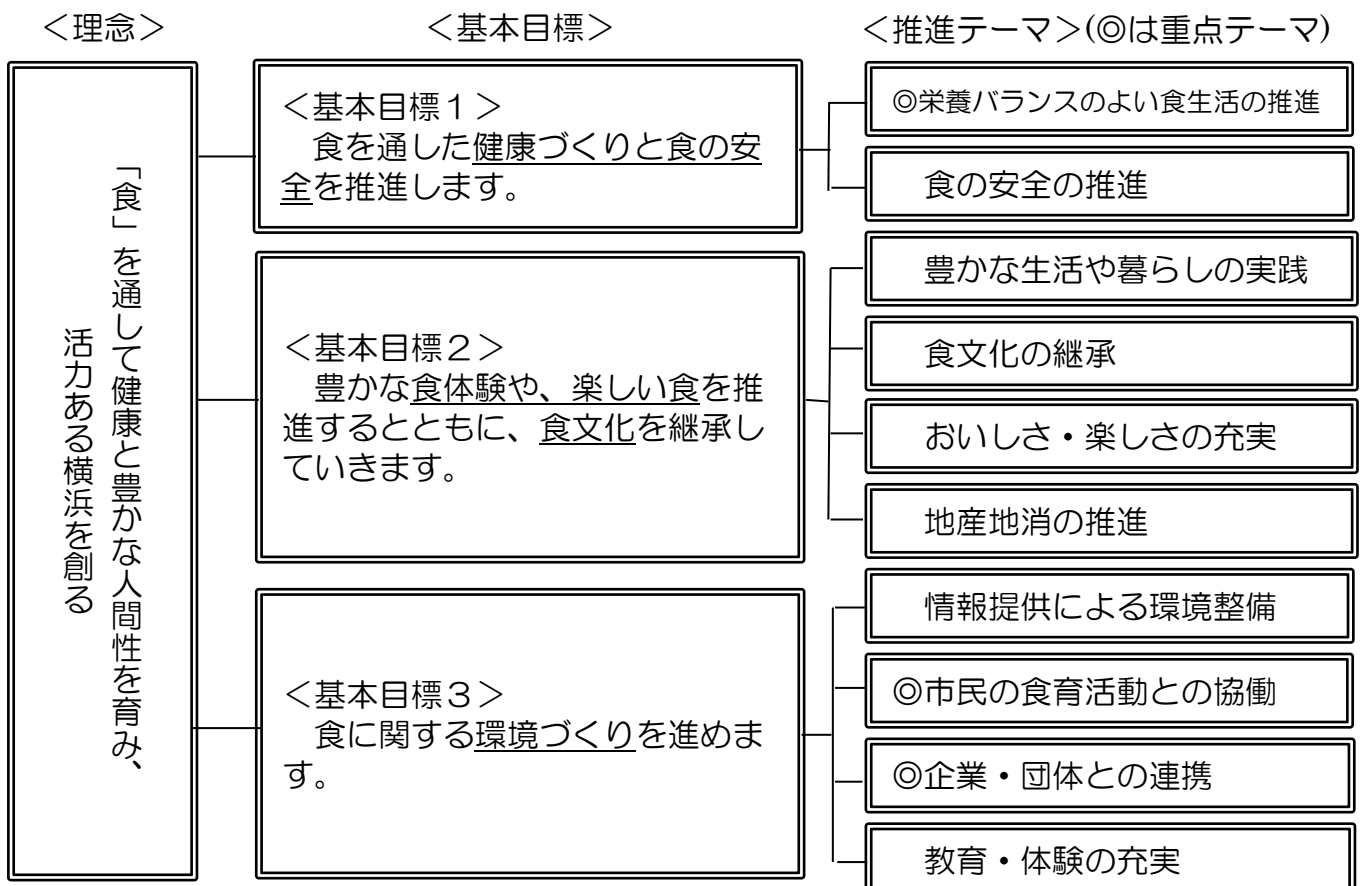
● 理念、基本目標、推進テーマ

第2期計画では、「食」を、生きるために欠かせないものであり、健全な心身を育む健康づくりの基礎であると捉え、健康増進法に基づく市町村健康増進計画である、「第2期健康横浜21」を基本に、「食を通して健康と豊かな人間性を育み、活力ある横浜を創る」を理念とします。また、理念の実現に向けて、「健康・安全」、「食体験・食文化」、それを支える「環境づくり」の視点からそれぞれ基本目標を掲げるとともに、基本目標ごとに推進テーマを設定し、そのうち、特に推進すべきものを重点テーマとしました。

● 第2期計画の特徴

第1期計画は食育の概念普及のために、「周知」を主眼としていましたが、第2期計画では「実践」を旨とし、以下の点に配慮して推進テーマ等を設定しました。

- 市民や地域・企業・団体等の皆様に実感を持って取り組んでいただけるよう、理念、基本目標、施策の方向性、主な取組を整理しました。
- それぞれの推進テーマにおいて、ライフステージ（育ち・学び【乳幼児期～青年期】、働き・子育て【成人期】、穏り【高齢期】）ごとの課題を意識し、取組が進められるよう、数値目標等を設定しました。
- 基礎自治体として優先的に取り組むべき方向性を示しました。
- 企業・団体との連携、市民と協働した取組の推進等を強化します。



● 第2期計画のテーマと目標像

理念	基本目標	推進テーマ(◎は重点テーマ)	
「食」を通して健康と豊かな人間性を育み、活力ある横浜を創る	1 食を通して健康づくりと食の安全を推進します。	◎1-1 栄養バランスのよい食生活の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 主食、主菜、副菜で構成された、野菜、牛乳、乳製品など多様な食品がそろったバランスの良い食事 • おいしく減塩した食事 • 生活習慣病の予防 • 食品を選ぶ力や、健康に配慮した簡単な料理ができるスキルの習得 • 高齢者の低栄養予防
		1-2 食の安全の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 食に関する正しい情報の選択 • 安全で安心できる食品の選択
	2 豊かな食体験や、楽しい食を推進するとともに、食文化を継承していきます。	2-1 豊かな生活や暮らしの実践	<ul style="list-style-type: none"> • 規則的な食事や、良く噛んで味わう等の望ましい食習慣の形成 • 心地良い食卓、楽しい食卓（共食など）の実践 • 多様なライフスタイル等に応じた食事の選び方、食べ方の実践
		2-2 食文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> • 横浜の特色のある食文化の形成や、地域の食材を生かす工夫や知恵の伝承 • 行事食の体験
		2-3 おいしさ・楽しさの充実	<ul style="list-style-type: none"> • 食の楽しさの充実 • 高齢になっても変わらない食の楽しさの充実
		2-4 地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 地産地消の推進による市民の豊かな食生活の向上 • 旬の食材の利用
	3 食に関する環境づくりを進めます。	3-1 情報提供による環境整備	<ul style="list-style-type: none"> • 流通、食糧生産、食品安全等の情報の充実 • 食に関する基本情報が正しく分かりやすく共有できる環境の整備 • 情報のギャップ（事業者・生産者等と、消費者のもつ情報の正確性や量の差）の解消
		◎3-2 市民の食育活動との協働	<ul style="list-style-type: none"> • 市民と協働した食育活動の推進及び活動支援 • 食育推進ボランティア養成、支援
		◎3-3 企業・団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 企業、団体と連携した食育の取組の推進
		3-4 教育・体験の充実	<ul style="list-style-type: none"> • 豊かな食体験、学習の充実 • 給食等での食育

施策の方向性(個別目標像)	主な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスに関する指標に対する関心を持ち、理解を深め、ライフステージに応じて健康的な食生活が実践できている。 ・1日3食しっかり食べるなど、規則的で健康的な食生活が実践できている。 ・塩分摂取量やエネルギー量に配慮するなど食事をとおして生活習慣病の予防行動がとれている。 ・年代や性別に関係なく、健康に配慮した簡単な料理が作れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントでの啓発（食育月間・食育の日、料理教室及び料理コンテストの実施等） ⑨食生活等改善推進員、保健活動推進員の活動支援 ⑨第2期健康横浜21の推進（生活習慣改善相談、よこはま健康応援団の拡充等） ⑨歯科保健との連携（噛ミング30運動の啓発等） ⑨スポーツ施策との連携（スポーツ団体と連携した食育の普及啓発） ・子どもへの食育啓発（母子健康手帳や子育てガイドブック等での啓発、両親教室や乳幼児健診での食育指導、市ウェブサイト保育所等の給食メニューを掲載等） ・学校、保育所等での啓発（給食献立表の配付と食育への活用等）
<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒や食物アレルギー等の基本的な情報にふれる機会を増やし、市民の食の安全、安心についての関心と知識を高めることにより、食に関する正しい情報を選択し、安全で安心できる食品を選択できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育所等での啓発【再掲】 ・食中毒、食品表示、食物アレルギーに関する啓発（食の安全に関する市民イベントの開催、リスクコミュニケーションの実施、食中毒予防等についての相談支援、啓発等） ・窒息の原因となりやすい食品に関する啓発
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や学校、保育所等で家族や友人と一緒に食事をする機会（共食）等を通じて、食事の楽しさを実感できている。 ・食に対する感謝の気持ち、食材の適量購入等の環境に配慮する気持ちを忘れることなく、ライフスタイルに応じた適切なマナーを身につけている。 ・歯や口の健康を維持するための保健行動がとれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育所等での啓発【再掲】（食育推進計画の策定及び実施等） ⑨第2期健康横浜21の推進（生活習慣改善相談、よこはま健康応援団の拡充等）【再掲】 ⑨歯科保健との連携【再掲】 ⑨環境教育の充実（出前教室などでの啓発、3R夢ッキング講座、3R夢農園等）
<ul style="list-style-type: none"> ・横浜らしい食文化の継承、市内産農畜産物に触れることで、横浜市や地域の食への関心を高め、官民一体となって食文化の継承を図っている。 ・行事食の体験をとおして、食文化への理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育所等での啓発【再掲】（食育推進計画の策定及び実施等、学校での企業・団体による食育出前教室） ⑨横浜らしい食文化の継承（食育イベントをとおした体験等） ⑨横浜市食育フォーラム等との連携（食育イベントをとおした体験等）
<ul style="list-style-type: none"> ・市民がいつまでも食のおいしさや楽しさを感じられるよう、健康づくりや地域づくりを連動させるなど、各分野を融合させるような取組を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨歯科保健との連携【再掲】 ⑨横浜市食育フォーラム等との連携【再掲】 ・学校、保育所等での啓発【再掲】（食育推進計画の策定及び実施等） ・イベントでの啓発（食育月間・食育の日等）
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が身近に農を感じる場をつくり、地産地消を実践する人が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨市内産農畜産物ブランド戦略（仮称）の策定・推進 ・地産地消に関する人材育成及び活動支援 ・直売所や青空市等の支援 ・はま菜ちゃん料理コンクール ・市内産農畜産物を使ったレシピ紹介 ・食材の旬情報の発信
<ul style="list-style-type: none"> ・官民それぞれが役割を認識し、適時適切に情報発信を図るとともに、その情報を受け取った市民が的確な行動が取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等における市場の広報活動、食材の旬情報の発信【再掲】 ・地産地消に関する人材育成及び活動支援【再掲】 ・食の安全の普及、啓発、食の安全の市民イベントの開催、リスクコミュニケーションの実施 ・食中毒予防についての相談支援、啓発
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源や人材が十分に生かされ、食育の取組が広く浸透している。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨食生活等改善推進員の養成講座の充実等 ⑨地域の魅力を生かした食育活動及び支援
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や団体の本来目的を尊重しつつ、各々の強みを最大限発揮させ、食育の推進力が加速している。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑨地域の魅力を生かした食育支援【再掲】 ⑨産学連携、横浜市食育フォーラム等との連携【再掲】
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃からの教育、体験の充実を通して、食育に関心をもつ市民が育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、保育所等での啓発【再掲】（食育推進計画の策定及び実施、給食等による食育の取組等） ⑨歯科保健との連携【再掲】

● 数値目標（新規目標は網掛け）

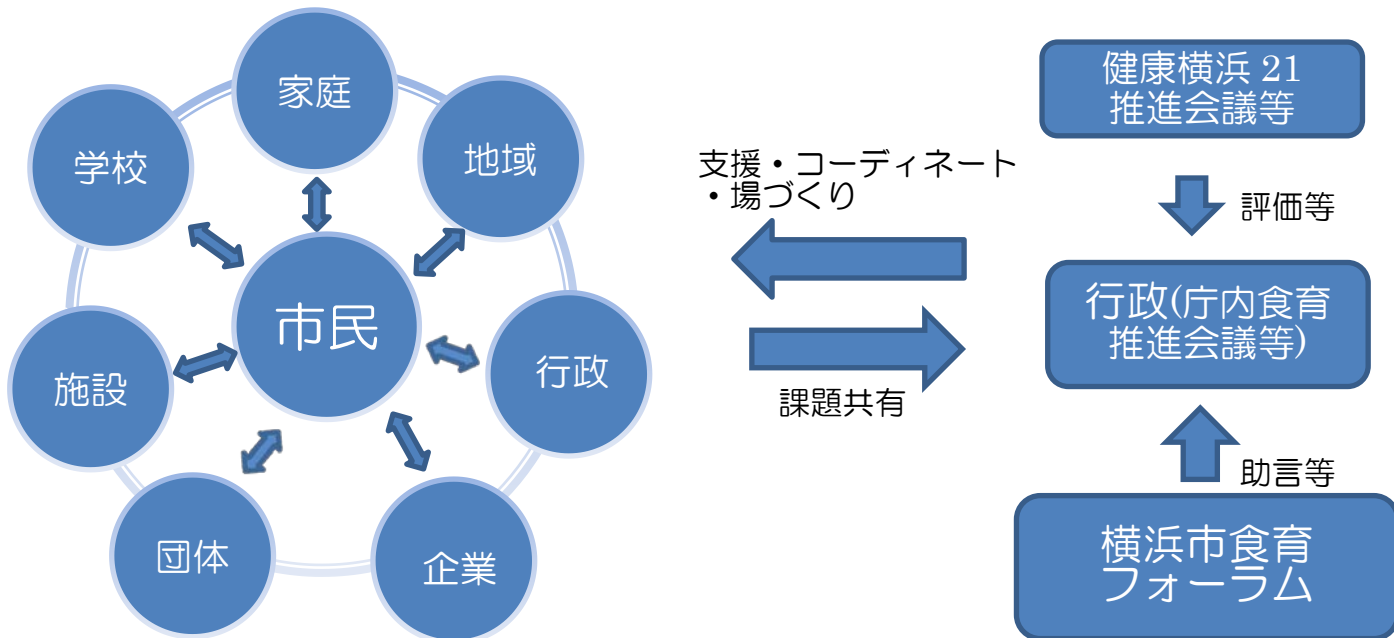
テーマ		対象世代	数値目標	直近値	H32 年度 目標値
1-1	栄養 バランスのよい 食生活の 推進	共通	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合	男 40.6%(H25) 女 42.1%(H25)	80%(H34)
		働き・子育て	朝食を欠食する市民の割合	20代男性 27.3%	15.0%以下
				30代男性 37.1%	
				20代女性 36.0%	
共通	一日の食塩摂取量	10.7g (H21,22,23)	8g(H34)		
共通	栄養や食事の作り方等を知ることについて、関心があり継続できている市民の割合	30.1%	35%		
1-2	進の安食 推全の	共通	食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合	43.4%	60%
2-1	し活豊 のやか 実践暮 なら生	共通	食事の際に食べ残さないことを習慣にしている市民の割合	62.7%	70%
		共通	朝食・夕食を家族等と一緒に食べる頻度(共食の回数)	—	週 10 回以上
2-2	の食 継文 承化	共通	食にまつわる地域文化や伝統を知ることについて関心がある市民の割合	67.7%	75%以上
2-3	しお さいの し 充 実 ・ 楽	稔り	60 歳代でなんでも噛んで食べることのできる者の割合	67.7% (H23)	80% (H34)
		共通	食事時間の楽しさについて、非常に楽しいまたはやや楽しい市民の割合	90.4%	90%以上
2-4	地産 地消の 推進	共通	地場産物の購入について、関心があり、継続できている市民の割合	14.8%	20%
		育ち・ 学び	市立小・中学校において児童生徒が地産地消の良さを理解している割合	—	80%
3-2	の育市 協活民 働動の と食	共通	食育推進ボランティアの養成人数(食生活等改善推進員、はまふうどコンシェルジュ等)	351 人/年	350 人以上/年
3-3	の団企 連体業 携と・	共通	横浜市食育フォーラムとしてイベント出展回数	—	5 回/年
3-4	教育 充実 ・ 体験 の	育ち・ 学び	食に関心を持ち、進んで実践している児童生徒の割合	小学校 88.9% 中学校 81.3%	小学校 90%以上 中学校 85%以上
			栽培や収穫体験を実施している保育所等の割合	—	90%以上

直近値について、()の記載がないものは H26 の値を示します。

国の第3次食育推進基本計画（平成 28 年度～32 年度）が現在策定中であることから、数値目標を含む内容について、国の動向に合わせ調整することがあります。

3 第2期計画の着実な推進に向けて

第2期計画の推進にあたり、市民、地域、企業・団体と情報を共有するとともに、横浜市食育フォーラム等を通じて協働できる仕組みをつくっていきます。また、食育の取組の評価にあたっては市民意識調査等の定量的評価だけでなく、各取組の実績等の定性的評価も含めて、総合的に評価し、横浜市食育フォーラム等を通じて第2期計画を着実に推進していきます。



●横浜市食育フォーラム【懇談会】

関係企業・団体等と行政が、食育に関する情報を共有し、意見交換を行うとともに、具体的な取組につなげていくことを目指します。

委員：学識経験者、食育・料理専門家、横浜市食生活等改善推進員協議会、横浜市消費者協会、横浜市食品衛生協会、横浜市場活性化協議会、横浜市立小学校長会、横浜市私立保育園長会、横浜市医師会、横浜市歯科医師会、神奈川県栄養士会、よこはま一万子子育てフォーラム、はまふうどコンシェルジュ、よこはま学校食育財団、NPO法人横浜ガストロノミ協議会、JA横浜、東京ガス(株)、横浜マリノス(株)、(株)崎陽軒、(株)ダイエー、(株)セブン-イレブン・ジャパン

●横浜市市内食育推進会議

市内の関係部署が、食育に関する情報を共有し、連携を強めるとともに、それぞれの役割分担に応じて各分野の具体的な取組に働きかけを行います。

- ・市内食育推進会議：副市長、食育推進の関係局長、代表区長
- ・市内食育推進会議幹事会：関係部署の課長級

